



モエワ★カミ 72

NO.

FEB 2009

●モエワ★カミの名はアフリカ英語で「エゾクヌギ」のことです



あさひやまどうぶつたんニュース
ASAHIYAMA ZOO NEWS

もくじ

シリーズ

「ぼくは動物大使」

その33 ジャングルの軽業師

シロテテナガザル

2. 3

特集 徹底解剖!!

オオカミの森

4. 5

飼育研究レポート

こども牧場だより

6

地球のお医者さんのカルテ

7

主なできごと

飼育動物数

編集後記

8

シロテテナガザル
Hylobates lar



ほくは、

動物大使

その33 ジャングルの軽業師 シロテテナガザル

シロテテナガザル

Hylobates lar

タイ・マレー半島・スマトラ島など東南アジアに生息する小型類人猿。完全なる樹上生活者で、果実や葉、昆虫などを食べる。親子4頭ほどの核家族で群れをつくり、数キロ四方に及ぶなわばりをもつ。歌声のような遠吠えでなわばりを維持する。

シロテテナガザルの分布



腕

身長ほどもある腕で、ブラキエーション（腕あたり）をする。ヒトは地上を足で移動する。テナガザルは腕で移動する。指はヒトと同じ5本。

腕の長さを計測中!

体

身長 約70cm。
体重 約4.5kg~8kg。

成長

約8年で性成熟。寿命は野生で約25年といわれる。飼育下では40才以上という個体もいる。

体色

黒、褐色、白など個体差がある。共通しているのは、手足の甲、指の外側と顔の輪郭が白いこと。手のひら、指の裏には毛がない。

足

足の指も、親指と他の四指が向き合っており（対向拇指）、木の枝をつかむことができる。

尾

尾は無い。小型類人猿のテナガザルは、オランウータンなど大型類人猿に次いでヒトに近い存在だ。

つかんでる!!



あさひやまZOOサル類配置のひみつ

ワオキツネザル (原猿類)	アビシニア・コロボス (真猿類)	ブラッサ・グェノン (真猿類)
------------------	---------------------	--------------------

シロテテナガザル
(小型類人猿)

ボルネオ
オランウータン
(大型類人猿)

進化の歴史 サルからヒトへ

「旭山のサル舎からおらんうーたん舎まで、実は「サルからヒトへ」進化の歴史どおりに並んでいるって気がつきましたか？DNA比較ではテナガザルは95%、オランウータンは97%ヒトと同一である、とされています。

スピード

体操選手もびっくりの運動能力。サル類の中でもトップクラスのスピードだ。

声

歌声のような大きな遠吠えをしてなわばりを守る。その声は数キロ先まで聞こえる。旭山でも彼らの歌声を聴けますよ!

あさひやまのテナガファミリー

母 シラコ 19才



兄 サスケ 6才



父 クロベー
2005.6.1 逝去



弟 コタロー 4才

父・クロベーが生きていれば野生と同じ核家族だったのですが…。

兄サスケは宇都宮動物園へおムコさんに行く予定。そのかわり、同い年(6才)のオスが宇都宮から来ます。

シラコとの「年の差カップル」誕生なるか!?

テナガザルから感じてほしいこと

野生のテナガザルは食肉やペットとして密猟されています。また、テナガザルの生息場所である東南アジアのジャングルは、人間の手によって開発が進み、その面積は急速に減少しています。

ヒトの先祖のような、親戚のような存在であるテナガザルさえも、人間の手によって滅びようとしている…そのような地球で、はたしてヒト自身は生き延びていけるのでしょうか？野生動物の危機は、とりもなおさず私たち人間自身の危機でもあるのです。



野生の仲間たちは人間によって絶滅の危機に…

特集

徹底解剖!! オオカミの森

オオカミの森
Wolf Museum

2008年6月、オオカミの森がオープン！野生のオオカミの生息環境を再現した新施設。その見どころを徹底解剖してみました！

オオカミの魅力とは？

オオカミはパックとよばれる家族単位の群れをつくり、集団で狩りをして生活しています。お父さんお母さんがそれぞれオスの1位、メスの1位(アルファといいます)で、子供たちが下位になります。

オオカミの森にはまだ3頭しかいませんが、将来子供が生まれパックが形成された時には、オオカミたちの子育ての様子や感情豊かなコミュニケーションを観察することができることでしょう。そして彼らの生活スタイルは驚くほどヒトに近いということに気づくはずですよ。



あへ弘土氏の壁画「エゾオオカミ物語」



悲しい歴史が語られる。必見！



階段にも観察窓が



出口。ここにも小窓



迫力です！



コキウサギの視点から見たオオカミ！



ヘアースアイへ



奥にはエゾシカも



オープンなスペースに出ます



足の裏まで見えるかも！



天井に窓が！



手書き看板「完成までの軌跡」



入り口。100年以上前の北海道へようこそ！

START!!



ここが
入り口

オオカミの森からのメッセージ

高い知性と豊かな感情表現によって集団生活を営むオオカミ。そんなヒトとよく似た生態だからこそ、一部は家畜化されイヌとしてヒトの親友になりました。しかし似ているが故に、野生のオオカミは人間との生存競争を繰り広げることになりました。

北海道でも、エゾオオカミが人間の手で絶滅に追いやられたために、天敵を失ったエゾシカが爆発的に増え、農作物や原生林への食害をひき起こしています。オオカミの森でオオカミとエゾシカを並べて展示しているのは、今や失われた北海道の自然環境を再現しているのです。

生態系とは肉食動物・草食動物や植物など、あらゆる生物の微妙なバランスの上に成り立っているのです。そして私たち人間も、微妙なバランスの上に乗った動物の一種であるということをおぼえてはいけません。



自然界では、もう遠吠えは聞こえない



檻のないゾーンがある



丘の上で遠吠え!!

飼育研究レポート

2006年4月19日、旭山動物園に当時1歳のマリモが名古屋の東山動物園からやってきました。旭山に到着したマリモは長旅の疲れもなく、元気いっぱいの様子。最初の2日間はこれからマリモの部屋となる寝室に慣れさせるために、外に出さず、室内で過ごしました。寝室の中では来たばかりとは思えないほど落ち着いていて、餌もすぐに食べ始めたので、この様子だとすぐに外の放飼場に出しても大丈夫だろうなあと思っていました。

3日目からは寝室の扉を開けっぱなしにして、自由に放飼場と寝室を行き来できるようにしておきました。数日が経ち、そろそろ外にも慣れただろうから扉を閉めてみようということになり、外でよく遊びまわったマリモを想像しながら寝室の扉を閉めました。はじめのうちは放飼場をゆっくりと歩きまわり、周辺の様子を伺っていたマリモ。「落ち着いているし、外も問題ないな」と思った次の瞬間、急に放飼場内を猛スピードで走りはじめました。足元がすべり、何度も転倒しそうになり、挙句の果てには柵にも衝突。マリモはパニック。飼育員もつられてパニック。もしキリンのように足の長い動物が転倒し骨折や捻挫などをしてしまうと、治療が困難で、最悪の場合はそのまま死んでしまう場合があります。

落ち着いたところでマリモが突如走り出した原因を考察。考えられることはこれまで開いていたはずの扉が閉まっていて寝室に戻れなくなっていたことと、放飼場の両サイドに今までに見たことがないカバとサイがいたことの2つ。

この次の日から相当ショックが大きかったのか、マリモは外に出てもわずか数秒、寝室にダッシュで戻ってきて、外を覗いたりするだけになってしまいました。開園日になってもマリモはまだ外にあまり出たがりません。外には新しく仲間入りしたマリモを見に来たお客さんたち。でもそこには何もいない…。マリモはたまに外に出たり、顔をひょっこり出すだけ。お客さんの「キリンいないね」「キリンさん出ておいで」というお言葉が繊細な心の持ち主の担当者にグサグサと刺さってきます。

その後、少し時間がかかりましたが、徐々に外の環境にも慣れ、ほかの動物と同様に外に出られるようになりました。心に傷を負ったマリモと担当者は、互いに励ましあひながらこの状況乗り越えることができました。

今では朝、担当者がキリンの寝室へ行くと早く外に出してと言わんばかりに扉の前に立ち、扉を開けてやるとこれまでのことが嘘だったかのようにすんなりと外に出て行きます。そして今度は外のほうが気に入ってなかなか寝室に入ってくれない日もしばしば。「まっ、手がかかるほどカワイイってモンです!」(大内)



こども牧場だより -シロヤギさんのメール-

あけましておめでとうございます！今年もこども牧場をよろしくお願いたします。さて、あっという間に過ぎた2008年でしたが、こども牧場では新しい仲間が増え、そして、残念ながらお別れした仲間がいました。

まず、新しく仲間入りした動物たちを紹介します！3月に仲間入りした4頭のイヌたち。くいしんぼうのセロリ(メス・パセットハウンド)、甘え上手なチェイス(メス・ポーターコリー)、のんびりやさんのムーン(メス・ニューファンランド)、見た目はクールだけど甘えんぼうなしょう(オス・オーストラリアンシェパード)です。看板犬のチャンティーとともに交代で皆さんにさわってもらう「おしごと」をしています。いろいろな種類のイヌを見てもらうことで、それぞれのイヌがどんな目的で作られ、使われてきたかを知ってもらえるきっかけになれば、と思っています。

続いて、9月に仲間入りした3頭のヒツジ。3頭ともメスで、去年の2~3月生まれ。ちょっとこわがりなうるとサリー(2頭ともサフォーク)、人なつこいかれん(ポールドーゼット)です。ふわふわもこもこの体で、初めての冬を屋外の放飼場で元気いっぱいに過ごしています。

最後に、10月に仲間入りした2頭のヤギ。去年の春に生まれたオスのじゃじゃ丸と、2歳のメスのさくらこです。じゃじゃ丸はくららとお見合い中なので、もしかしたら春に仔ヤギが生まれるかも…。楽しみに待っていてくださいね！

そして、残念ながらお別れした、ヒツジのドリー・ポリー親子。お母さんのドリーは3月に、娘のポリーは12月に亡くなりました。2頭とも高齢でしたが、まだまだ長生きしてくれると思っていたのでとても残念でした。

2009年はどんな1年になるのでしょうか？2009年もこども牧場の動物たちをかわいがってくださいね！皆さんのお越しをお待ちしています!! (佐藤)



地球のお医者さんのカルテ

—The Earth's Karte by a Wildlife Vet—

カルテNo.1 伝えること【キーワード:人の心、種の保存、ホッキョクグマ、種別調整者、性判別】

今年、年男(丑年)の私は、動物園に勤務して10年が経ちました。これまで獣医師として個体をしっかり診られるように必死で勉強してきましたが、最近ではその種の野生個体群、ひいては生息地(生態系)を診ることも強く意識するようになりました。

新年早々、うれしいことがありました。昨年夏のサマースクールで担当した小学6年生の生徒がわざわざ私を尋ねてきてくれました。見せてくれたファイルには、ヒト、タヌキとカラスの体温と心拍を測って比較したこと、カラスの生態系での役割や人との関わり、猛獣を治療するための吹き矢を体験して学んだことなどが丁寧にまとめられていました。さらに、将来は獣医師を目指すという決心を、口を真一文字に結んで力強く報告してくれました。一人の未来ある人生を動かしたことに感動し勇気をもらいました！

私たち動物園人は、人と野生生物のお互いが快適で幸せな自然環境と人間社会を作っていくため、一人でも多くの人々の心を動かすメッセージを発信していくことも重要な役割です。復活したモユク・カムイを機に、心新たに地球のカルテを書くことにします。

旭山動物園も所属する日本動物園水族館協会では、国際的にも協力し、尊い自然や動物の保全を目指して活動しています。動物園で飼育されている野生動物にとっても、子孫を残すことが使命であるため、飼育する側は、彼らと同じ種が地球上で存続できるよう役割を果たさせる責任があります。動物園で希少な野生動物種を継代的に繁殖させて残していくこと(種の保存)は、最重要課題の一つです。希少動物を絶やさず増やしていくために、同協会には、種保存委員会が設置されており、指名された代表園が動物種ごとに戸籍簿を作って管理しています。これは、動物たちの貴重な繁殖データを残したり、交配相手を探したりするのに役立ちます。当園は、ホッキョクグマの種別調整者として血統登録を担当しており、毎年、全国から最新情報を集め、繁殖計画を立てています。

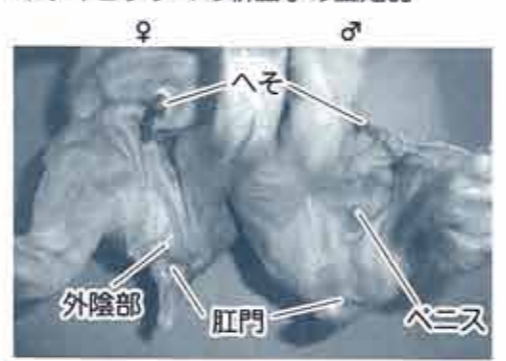
札幌市円山動物園で生まれ、釧路市動物園とおびひろ動物園にそれぞれ帰入りしたはずのツヨシとピリカがどちらもメスであることが判明し、性別の取り違えが起こりました。当園にも、2週間くらい毎日のようにマスコミや市民からの問い合わせがあり、大きな関心を集めました。ここでは、ホッキョクグマの性判別について解説したいと思います。

■ホッキョクグマの性判別 ~なぜオスとメスが間違われた?~

- 国内での繁殖成功例が少ないため、性判別の情報や技術が不足している。
- (どの動物でも)幼少期は生殖器が完全に発達していないため、性判別が難しいことがある。
- 幼少期では親から引き離して生殖器を確認するのに、育子放棄が起こるリスクがある。
- 成長後は、体も大きくなり、攻撃的になるので、麻酔の技術が必要でリスクもある。
- 生殖器が多く毛に覆われているので、外部から見分けることが難しいことがある。



ホッキョクグマの新生子の生殖器



■ホッキョクグマの性判別 ~正しく行う技術~

- 幼少期では、3ヶ月頃に親から離し、生殖器の形態を確認
 - ①肛門から生殖器までの距離:長い→オス、短い→メス
 - ②形態:筒状→オス、スリット状→メス
- 成長後は、排尿行動から判別(オスはへその後ろから前へ、メスは真下へ尿が出る)
- オスではペニス先端の包皮の毛が長く伸び、メスでは尾の下の毛が長い
- 確実な麻酔技術で不動化し、発達した生殖器を確認(オスではペニスを包皮から露出させることができ、陰茎骨があり、メスでは肛門の下に外陰部がある)
- DNA判定(毛や血液などを採取し、大学などの研究機関で検査)



動物の性判別は、人が行うことですから、ホッキョクグマに限らずどの動物でも、間違えることはあります。しかし、飼育員や獣医師に最も大切な要素の一つが「観察力」です。今後は、第一に生殖器の外見や行動の観察による性判別技術を向上させることに加え、次に科学的な診断技術も補助的に検討していくべきと考えます。2008年12月9日に、円山動物園でホッキョクグマが誕生しました。国内の飼育頭数が減少傾向にある中、希望の光です。世の中では、性別の取り違えや繁殖相手探しのニュースの方が大きく取り上げられた感がありますが、種別調整者にとっては、最もうれしい大きなニュースでした。

動物に関わっていると、毎日に変化があり、興味が尽きません。動物園の動物は、全人類共通の宝です。私たちに、地球上の野生動物を保護し、次の世代に伝えていく責任があります。足下の自然環境を大切に思いやれば、空気と水、そして人を通じてホッキョクグマのすむ北極ともつながることでしょう。(福井)

主なできごと

2007年

- 1月9日 あざらし館「お外でもぐもぐタイム」開始
- 1月13日 とことん旭山「卵標本」
- 2月4日 チンパンジー「イブ」出産
- 2月9日 アムールトラ人工授精
- 2月18日 べんぎん館「トボガン広場」オープン
- 3月18日 「ペンギンの散歩」終了
- 3月27日 入園者300万人達成
- 3月29日 オオワシ人工ふ化
- 4月11日 アムールトラ人工授精
- 4月15日 ゴマファザラシ「カムイ」出産、仔溺死
- 4月28日 夏期開園・「地球温暖化展」開催
- 5月12・15・18日
ワシミミズクふ化
- 5月13日 感じて！身近な自然を学ぶ会「野鳥・草花編」開催
- 5月15日 ジェフロイクモザル入園（日本平動物園より）
- 5月16日 アビシニアコロブス出園（日本平動物園へ）
- 5月19日 新企画「三度のメシより旭山」開始
- 5月20日 「アライグマフォーラム」開催
- 6月9日 「スズメ・カラスフォーラム」開催
- 6月9日 イワトビペンギンふ化
- 6月16日 フタコブラクダ「ちび」出園（おびひろ動物園へ）
- 6月21日 レッサーパンダ出産
- 7月1日 開園40周年
- 7月15日 ホッキョクグマ「ハッピー」死亡
- 7月15日 アムールヒョウ「ビック」死亡
- 7月30日 オランウータン出産
- 8月1～3日
「サマースクール」開催
- 8月11～15日
「夜の動物園」開催
- 8月5日 感じて！身近な自然を学ぶ会「昆虫編」
- 9月1日 「外来生物展」開催
- 10月6日 「アライグマフォーラム」開催
- 10月13日 オランウータン命名式「モリト（森人）」に決定
- 10月21日 わくわくゲーム大会・夏期開園終了
- 11月3日 「雪の中の動物園」開園
- 11月3日 「あさひやま『もっと夢』基金」設立
- 12月11日 「ペンギンの散歩」スタート
- 12月18日 べんぎん館「トボガン広場」オープン
- 12月21日 「レッサーパンダのつり橋」オープン
- 12月23日 感じて！身近な自然を学ぶ会「冬芽・足あと編」

2008年

- 1月5日 ニホンザルαオス「タロウ」死亡
- 1月13日 ワビチ・トナカイ引越し
- 1月18日 チンパンジー「フルト」出産
- 1月19日 あざらし館「凍らせ大作戦」完成
- 2月29日 アムールトラ人工授精
- 3月8日 とことん美ら海水族館、沖縄とインターネット中継
- 3月22日 ゴマファザラシ出産、命名「まめ」
- 3月25日 チンパンジー「ミラクル」出園（野毛山動物園へ）
- 3月30日 アビシニアコロブス出産
- 4月8日 ライオン出産
- 4月26日 夏期開園・「地球温暖化展」開催
- 5月3日 感じて！身近な自然を学ぶ会「草花観察会」
- 5月11日 感じて！身近な自然を学ぶ会「野鳥観察会」
- 5月18日 「アライグマフォーラム」開催
- 5月18日 ライオンの仔死亡
- 6月7日 「A8サミットin旭山」開催
- 6月22日 感じて！身近な自然を学ぶ会「スズメ・カラス編」
- 6月26日 アミメキリン「ゲンキ」入園（徳山動物園より）
- 6月28日 「オオカミの森」オープン
- 7月1日 開園記念日
- 7月5日 「もう遠吠えは聞こえない」
～オオカミのいない知床の現状と未来～
- 7月26日 感じて！身近な自然を学ぶ会「昆虫編」
- 8月1～3日
「サマースクール」開催
- 8月1日 チンパンジー「ミコ」出産
- 8月13～17日
「夜の動物園」開催
- 8月16日 ジェンツーペンギンふ化
- 8月20日 キングペンギンふ化
- 9月26日 ヒツジ入園（土別・世界のめん羊館より）
- 10月11日 「アニマルサミットCOP14」開催
- 感じて！身近な自然を学ぶ会「木の芽・落ち葉編」
- 10月12日 「アライグマを学ぶ会」開催
- 10月19日 わくわくゲーム大会・夏期開園終了
- 11月1日 「雪の中の動物園」開園
- 冬もワンポイントガイド開始
- 12月22日 感じて！身近な自然を学ぶ会「冬芽・足あと編」
- 12月28日 「ペンギンの散歩」スタート

編集後記

2年半休眠していたモユクカムイが復活しました。新たなスタッフも加わりみな張り切っています。振り返る余裕もなく、前を向いて走り続けてきましたが、ちょっと立ち止まってみると、大切なものを落としてきてしまったとこともあったように思います。このモユクカムイはすべてスタッフ手作りで、とぎれながらも続けてきました。

旭山動物園にとってはワンポイントガイドと同じく理念的なところで原点です。より多くの方に生き物の素晴らしさ、尊さを感じてもらいたい一心から生まれたものです。基本は季刊発行を目指します。季節の便りとしてこれからのモユクカムイ、皆さん期待して下さい。

（坂東）

飼育動物数

（平成20年12月末現在）

哺乳類	46種	257点
鳥類	78種	494点
爬虫類	11種	28点
合計	135種	779点

モユク・カムイ No.72 平成21年2月28日

発行所 旭川市旭山動物園 〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
 発行 小菅正夫 <http://www5.city.asahikawa.hokkaido.jp/asahiyamazoo/>
 編集委員 中田 真一・坂東 元・昌山 淳・大西 敏文
 印刷 谷川印刷株式会社 〒070-0831 旭川市旭町1条4丁目 ☎0166-51-0653

新編集部
がんばり
ます！

